

第 2 回堺市子ども読書活動推進計画改定懇話会の概要

開催日時	令和 6 年 9 月 3 日（火） 10:30～12:00
開催場所	堺市役所 地下 1 階 多目的室
出席者	森座長、近藤副座長、井脇委員、大林委員、岡崎委員、巽委員、田辺委員、仲村委員 (堺市子ども読書活動推進会議委員)
傍聴者	0 名
案件等	1 開会 2 案件 堺市子ども読書活動推進計画改定骨子案について
資料	第 2 回 堺市子ども読書活動推進計画改定懇話会 次第 【資料 1】堺市子ども読書活動推進計画改定骨子案 【資料 2】堺市子ども読書活動推進計画改定骨子案検討資料 【資料 3】関連データ集 【資料 4】堺っ子読書サミットまとめ 【資料 5】子ども読書活動推進計画指標一覧（政令指定都市）
議事要旨	
<p>1 開会</p> <p>○ 堺市子ども読書活動推進会議委員長あいさつ</p> <p>2 案件</p> <p>堺市子ども読書活動推進計画改定骨子案について</p> <p>○ 施策の方向性についての各委員の意見要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本の情報を提供する場所が多くあることは重要。幼稚園・保育所、小・中学校のホームページ等の活用も効果的なのではないか。</li> <li>・ すべての子どもを対象とした、1 人 1 人の子どもに寄り添った施策であってほしい。不登校・貧困・心身障害等により、図書館・資料にアプローチしにくい子どもへの対応も必要。実際に施設を利用する機会もあればよい。</li> <li>・ 誕生から就学前までは、地域や関連団体等と連携した取組が効果をあげているが、小学校・中学校については、指標を設定し、目標を具体的に数値化して取り組む必要がある。</li> <li>・ 計画の推進にあたっては、庁内だけでなく関係機関や関係団体等による推進委員会を設置して進捗管理を行うのが望ましい。</li> <li>・ 「堺っ子読書サミット」（資料 4 参照）の取組は興味深い。人気のある本の待ち時間が長いので複本を多く買ってほしいという意見には、子どもが図書館から遠く原因の一端を、本の紹介や SNS での情報提供を求める意見については、本との出会いの場をつくることの重要性を感じた。</li> </ul>	

- ・ 「堺っ子読書サミット」の参加者は小学 5 年生からだが、小さい子どもの声もきいてほしい。次の機会があるなら、効果的な広報や、アプローチの仕方も検討すべき。
- ・ 子どもの多様性を踏まえた資料提供の工夫も必要。現行の市立図書館の電子書籍の提供だけではなく、連携によるアプリの利用等も、きっかけづくり、環境づくりとして有効ではないか。

#### ○ 発達段階別取組についての各委員の意見要旨

- ・ 「きっかけづくり」の取組が十分ではないと思う。本を読まないまま小学生・中学生になった子どもを対象とした取組も必要。年代によってアプローチの仕方が違うはずなので、幼児期以外の取組を検討してほしい。
- ・ 子どもの読書サブスクの人気を取り上げた新聞記事を読んだ。今日の 1 冊の提示、インターネット上での他の子どもとの感想の共有、AI の先生とのチャットによる感想のやりとり等の取組が紹介されていた。同じような取組が、図書館でできないか。他の子どもの読んでいる本や、その感想を知ることが、読書意欲の喚起につながるのではないか。
- ・ インターネットを活用した情報発信は効果的だと思うが、読書から遠ざかっている子どもが、あえて図書館のホームページを見ようとは思えない。広報力の強化が必要。
- ・ 1 人 1 台端末を活用する等して、子どもが気軽に、電子書籍や本の情報にアクセスできることは、読書のきっかけとして有効だと思われる。一方で、子どもがその発達において本（紙媒体）とふれあい、文字を追ひ、読書能力を培う過程は重要視されるべきである。また、情報端末等の使用に関しては、子どもの健康への配慮も必要。
- ・ 居心地の良さを求めて市立図書館や学校図書館に来た子どもが、そこに本があるので読むということも読書のきっかけとなる。まんがも良いきっかけになると思うので、一概に規制しなくても良いと思う。地域文庫での経験だが、子どもたちの読書は学習まんがから他の本へと広がった。
- ・ 堺市の子どもの読書活動は、小学校 6 年生から中学校 3 年生の間で減少しており、全国・大阪府と比較しても、中学校 3 年生の結果は低い。小学校高学年から中学生のところで、学校現場とも連携して新たな取組を検討し、目標値を指標として取り組むのも効果的ではないか。
- ・ 手話による読み聞かせ、外国籍の子どもへの読み聞かせ、大人を対象とした読み聞かせなどにも積極的に取り組んでほしい。
- ・ 学校図書館の読書環境の整備状況については、貸出点数、学校図書館図書標準に対する蔵書数の割合、学校司書の配置状況、蔵書のデータベース化の状況、一斉読書活動の状況等を指標としてどうか。
- ・ 市立図書館の状況については、子ども 1 人あたりの年間貸出点数、子ども 1 人あたりの児童書の蔵書点数を指標としてどうか。
- ・ 第 1 回懇話会で学校図書館の資料が古いという意見があった。古くても良い本はあるが、改訂版も含め資料の更新は重要である。子どもが選書できる仕組み、新刊購入のあり方等、蔵書の数・質・選定の仕方について検証すべき。

- ・ 市立図書館へ行ける子どもは限られており、学校・保育所・幼稚園・こども園が重要。厳しい面もあると思うが、市立図書館の団体貸出制度も利用して、読書環境の整備に取り組んでほしい。
- ・ 小規模校でも基本資料を備え、人がいる環境をつくる必要がある。学校図書館図書標準については、少なくとも70%の学校の達成を望む。
- ・ 本が並んでいるだけで楽しいという感覚が、今の子ども達にもあるなら、各校区に図書館があることが望ましい。美原区の美原まちなか文庫のような寄贈資料の活用、家庭・地域文庫、移動図書館などによる読書活動の推進が必要。

○ 成果指標についての各委員の意見要旨

- ・ 読書環境を整備するには予算措置が必要。具体的な目標を明確にして、予算をつけて事業を推進するうえで、指標は役にたつ。
- ・ 他市と比較しても中3の不読率が高い。中学生へのテコ入れの取組の目標を指標としてはどうか。

○ その他の意見要旨

- ・ 市職員と意見交換を行う場があってもいい。
- ・ 本気で不読率の低減に取り組むには、市民と行政、ボランティアが連携して取り組む必要がある。堺市民は教育への意識が高い。この力を活用するほうがよいと思う。